

両荘地区小中一貫校基本構想報告会について

1 開催趣旨

令和2年10月に策定した「両荘地区小中一貫校基本構想」（以下「基本構想」という。）に基づき、今後、地域の実態に即した学校となるよう、地域、保護者及び学校の代表者で構成する両荘地区義務教育学校開校準備委員会を中心に具体的な検討を進めていきますが、基本構想の内容について地域の皆様に少しでもご理解を深めていただくため、地域住民と教育長が意見交換を行うことを目的に実施しました。

2 実施日時及び会場

令和2年11月21日（土） 14時～15時40分
両荘中学校体育館

3 対象者（参加者）

両荘地区にお住まいの方

4 当日の進行

第1部 基本構想を説明（教育長）
第2部 参加者との意見交換（教育長）

5 参加者数

63人

◎報告会の様子



6 意見の概略

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響により実施された分散登校において、通常よりも少人数での学級運営を行った経験が良かったという声を現場の教員から聞いている。全国的にも少人数学級の実現を求める動きもある中で、統合することは時勢に逆行しているように感じる。また、コロナ禍において3密を避けるという意味でも、少人数学級が望ましいと思う。
- ▶ 本年1月に実施された両荘地区の全戸アンケートには、4-3-2制の導入や義務教育学校については言及されていなかったため、今回唐突に出された印象を受ける。
- ▶ 公民館との複合化については唐突感があり、児童生徒の安全面について不安が残る。また、共同利用する調理室など、公民館として使いたい時に使えなくなるのではないかと心配である。防災面についても、2階以上を避難場所とし、1階が浸水する想定であれば、避難場所までの避難経路の問題もあり、公民館はもっと高い場所に建設する方がよいと思う。
- ▶ 公民館との複合化に伴う「専門性のある人材の活用」の具体的な内容については、十分に検討してもらいたい。
- ▶ 公民館との複合化は全戸アンケートの質問になかったが、安全対策について開校準備委員会や教育委員会において、十分に検討してもらいたい。
- ▶ 施設一体型一貫校となった際に、6年生のリーダー性が失われることが問題だと考えており、リーダー性を育む取組や区切りを意識させる取組等は十分に検討してもらいたい。
- ▶ 例えば、両荘地区以外の中学校に進学した場合に、スムーズに移行できるのか心配である。
- ▶ 新しくプログラミング教育等が実施されている中で、「ふるさと科」や「英語科」の実施により、他の授業に支障が生じないか不安である。
- ▶ 小中一貫校への移行により、制服や教材等の新たな負担が生じないか心配である。
- ▶ 給食はセンター方式となることで、温かいものが食べられなくなるのではないかと心配である。
- ▶ 教育目標の「ふるさとを愛し」という言葉について、すでに両荘の子どもたちはふるさとを愛していると考えており、不要だと思う。
- ▶ 特別な支援を要する子どもたちへの支援についても、基本構想に盛り込んでもらいたい。
- ▶ 小1プロブレムや中1ギャップの問題を解決してもらいたい。
- ▶ 保健室の配置やプールの運用については十分に検討してもらいたい。
- ▶ 小学校に拠点を置いている団体のあり方についても検討してもらいたい。
- ▶ 持続可能な社会の創り手を育成するための具体的な方法を示してもらいたい。
- ▶ 人口増加対策や校区外からの通学についても検討してもらいたい。
- ▶ 全戸アンケートで施設一体型小中一貫校を選択した62.7%の地域住民の思いを大切に、今回の小中一貫校への移行が一つのモデルとなり、両荘地区の発展に繋げてもらいたい。
- ▶ 今後の検討は地域と一緒に進むとともに、保護者も意見が言えるような機会を作ってもらいたい。
- ▶ 小中一貫校に関する協議内容について、情報が十分に開示されていないように感じるため、意見や質問等の議論の内容を積極的にオープンにってもらいたい。